7月7日のウクライナ情報

安斎育郎

●ウクライ向けレオパルト戦車「近代化」 独製戦車にソ連の装甲を装着＝メディア（2023年7月6日）

ソ連製の爆発反応装甲「コンタクト 1」を装着したウクライナ軍向けの独製戦車レオパルト 2A4 の動画がネット上に出回っている。西側メディア Army Recognition が報じている。報道によると、レオパルト戦車の砲塔と車体側面にソ連製の「コンタクト 1」が装着されている。

Army Recognition によると、ドイツの軍人らはレオパルト 2A4 の装甲について、ロシアの戦車 T-90 や改修された T-72 戦車の砲弾から防護するには十分ではないと主張している。

一方、Army Recognition の記事では、「コンタクト 1」を装着したレオパルト 2A4 は今や、最新世代の成形炸薬弾に耐えることができるほか、対戦車ミサイルや携帯対戦車擲弾発射器の脅威にもより効果的に対処することができ、これは戦場での戦車の生存率を向上させると指摘されている。

1970 年代に開発されたソ連製の「コンタクト 1」は、多数の長方形の鋼板で構成されている。そこに爆発物が入っている金属製の箱で構成されている爆発反応装甲に成形炸薬弾が被弾すると爆発物が爆発する。被弾した成形炸薬弾がもたらす高速（約 7km/秒）のジェット（噴流）が箱の内部にある爆発物を爆発させる。爆薬を挟み込んだ金属板が高速で吹き飛ばされ、側面から弾頭に衝突することで噴流のエネルギーを大幅に弱める。これにより、車両の主装甲を貫通する際の成形炸薬弾の有効性が低下する。

どんどん失われるレオパルト戦車

7 月 3 日、ロシアのセルゲイ・ショイグ国防相は、ウクライナ軍が突破を試みる各戦線で、これまでにロシア軍が「レオパルト 2」16 両を撃破したと発表した。これはポーランドとポルトガルがウクライナに供与した「レオパルト 2」の数にほぼ匹敵する。

西側では、ウクライナ軍が反転攻勢を開始してからレオパルト戦車がどんどん失われていることに「失望」の声が上がっている。

しかもレオパルトは、米製歩兵戦闘車「ブラッドレー」と並び、ウクライナ軍が保有する最も近代的な装甲車両の一つだと考えられている。

なお、ウクライナの投降兵がスプートニク通信に語ったところによると、ウクライナ兵は戦車に乗るのを恐れている。戦場では戦車が標的となり、ロシア軍があらゆる手段を使って狙ってくるという。

●「これ以上いい場所はない」 ウクライナ国防相、自国を西側兵器の実験場と認める（2023年7月5日）

ウクライナのアレクセイ・レズニコフ（オレクシー・レズニコウ）国防相は、英紙「フィナンシャル・タイムズ」のインタビューのなかで、ウクライナが西側兵器の理想的な実験場だと述べた。

同紙はレズニコフ国防相の言葉を次のように伝えている。

「世界の軍事産業にとって、これ以上いい実験場を考え出すことはできないだろう」

アレクセイ・レズニコフ（ウクライナ国防相）

同紙は、米国とノルウェーが共同開発した防空ミサイルシステム「NASAMS（ナサムス）」や、独製防空システム「IRIS-T」などが供与されたことによって、「様々なシステムの北大西洋条約機構（NATO）レベルでの共同実験」が可能になったと指摘している。

「こうしたシステムは連携して動いている。彼ら（編注：西側諸国）にとっても、武器が実際に機能するか、どれほど効率的か、改良が必要かなどを実際に見て確かめることができるのは重要だ」

それと同時に、「ウクライナの戦場での実験」により、NATO 兵器の欠点も明らかになった。米国の「M777」、ドイツの「PzH2000」、フランスの「カエサル」、ポーランドの「クラブ」といった各種榴弾砲は、激しい戦闘には向いていないことが分かった。これらはロシアの榴弾砲と比べ、連続砲撃能力が低いからだ。フィナンシャル・タイムズは製造メーカーの話として伝えている。

加えてレズニコフ国防相は、GPS 誘導の「スマート兵器」や多連装ロケット砲「ハイマース（HIMARS）」は「非常に正確」であることが証明されたが、ロシア軍の電子戦対応装備によって妨害されうるとも述べた。そして「ロシアが対抗策を思いついた場合、我々はパートナー国に情報提供し、彼らはどう対処するか考える」と強調した。

ウクライナ支援の一番のうまみ

各国がウクライナへの軍事支援を続ける背景には、他人の手でロシアを弱体化させる思惑だけでなく、兵器の実証実験でデータを得ようとする狙いがある。ロシア下院のビャチェスラフ・ボロジン議長は 4 月、「米国や NATO にとってウクライナは兵器と新しい戦争の方法を試す実験場に過ぎない」と述べている。

米中央情報局（CIA）の元職員アンドリュー・ブスタマンテ氏はこれまでに、米国は新たな兵器を開発してウクライナに送っていると述べている。

「米国は戦闘で開発した兵器をテストしている。これは、軍産複合体にとって非常に重要なことだ。自国民を危険にさらすことなく、テスト後に必要なすべての情報とデータを得ることができるためだ。これが、ウクライナ政府を支援することで得られる最大のメリットの 1 つだ」

アンドリュー・ブスタマンテ（CIA 元職員）

また、米放送局 CNN も、米軍幹部や英シンクタンクの研究を引用し、米国防総省にとってウクライナ紛争は米国のシステムに関する膨大な情報源となっていると指摘している。

例えば自爆突入型無人航空機「スイッチブレード 300」や対レーダーミサイルなどは、戦場での効果が予想より低いことを示した。また、ハイマースについては、酷使されると頻繁にメンテナンスが必要になるという教訓が導き出された。

こうしたデータはさらなる兵器の改良に活用される。米下院情報委員会のジム・ハイムズ民主党下院議員も、導き出された教訓について「一冊の本が書けるだろう」と指摘している。

米国の「実験的」戦争

米国は過去の戦争で度々最新兵器の効果を試してきた。

広島、長崎への原子爆弾投下もその一例である。1945 年 7 月 16 日に人類初の核実験を行ってから 1 ヶ月も経たないうちに、両市で「実証実験」を行って数十万人の日本人を虐殺した。

また、1991 年の湾岸戦争では、イラク戦車部隊に対して劣化ウラン弾を使用。また、当時最新鋭だった巡航ミサイル「トマホーク」もこのとき初めて実戦で本格的に使用された。

直近ではイラクに対する侵略戦争やアフガニスタンでの「対テロ作戦」の例がある。2003 年当時、「しんぶん赤旗」はイラク戦争が「圧倒的な力を誇る兵器群の効果を検証する『実験場』の様相も呈している」と指摘している。

イラク戦争ではバグダッドの住宅街にあるレストランにバンカーバスター（大型の地中貫通爆弾）を打ち込み、民間人 14 人を殺害した。また、アフガニスタンでは 2017 年、通常兵器では史上最大の破壊力を持つとされる「MOAB（大規模爆風爆弾兵器）」をテロ組織の撃滅作戦に使っている。

このように、隙あらば世界の紛争に介入し、あらゆる兵器を実戦で使用するのが米国のやり方だ。現在も「自由」や「民主主義」などの美辞麗句を並べ、ウクライナへの軍事支援を行い、兵器の改良や開発に向けたデータを収集している。

●EU のロシア産燃料拒否のお値段は？ 毎年 110 兆円以上＝マスコミ（2023年7月5日）

ロシアの石油やガスの代わりにグリーンエネルギーを使用した場合、EU は年間 7000 億ユーロ（110 兆 0450 億円以上）の追加投資を余儀なくされる。欧州委員会は、EU 諸国が安価な燃料の使用を完全に放棄し、新たなエネルギーインフラを開発するために必要なコストを算出した。この報告書の草案は米ブルームバーグ紙に掲載された。

報告書の草案に記載された金額は、欧州委員会のウルスラ・フォン・デア・ライエン委員長が 2 年足らず前に提案した金額よりもはるかに高い。これは、カーボンニュートラル達成のためのコストが上昇の一途をたどっていることを示している。欧州委員会は資金の大半を民間から拠出されることを当てにしているが、EU 加盟国の公的予算もまた関与する。

文書では気候変動と生物多様性の危機にかかる出費と結果は未知数である点が強調されている。EU はすでに、2021 年から 2027 年の間のクリーンテクノロジーの発展とエネルギー安全保障のために、複数年予算のほぼ 3 分の 1 にあたる 5780 億ユーロ（90 兆 8700 億円以上）を割り当てている。

スプートニクは以前、欧州委員会が EU 諸国に対し、ロシア産ガス供給の完全停止の事態に備えるよう呼びかけたと報じている。

●マクレガー退役大佐、論ず（2023年7月5日）

「誰がウクライナ紛争を続けたがっているのか？」

アイゼンハワーは軍産複合体に気を付けろと言った、立ち向かったケネディ大統領、トランプ大統領は潰された、しかし、それでも我々は連中を止めなければならない。

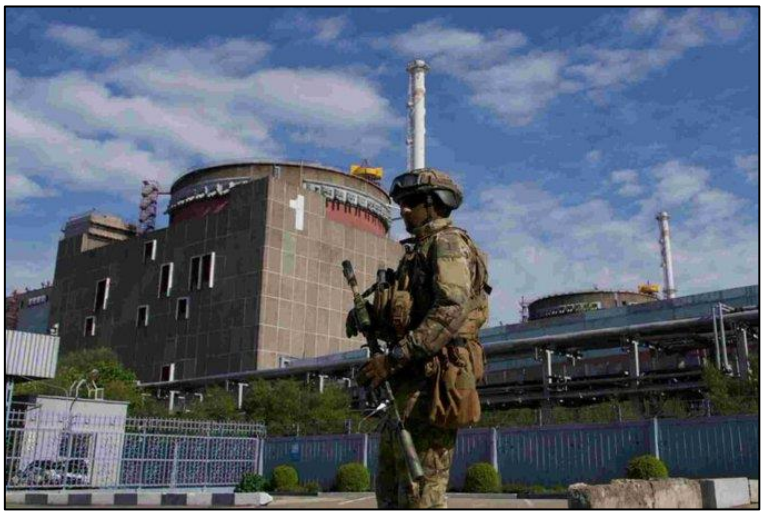
https://twitter.com/i/status/1676285777054150657
https://twitter.com/i/status/1676525360702439425

●高等行政学校でのプーチン演説（2023年7月4日）

プーチン大は高等行政学校の卒業生らと会談、露の勝利に自信を表明。それは疑いの余地はない強調した。「ヘルソン地域に住むすべての人に感謝したい。人々は驚くべき忍耐力、勇気、そして創造的な可能性を示しているからだ」プーチンは、宇は反撃中どの分野でも成功せず大きな損失を出したと述べた。

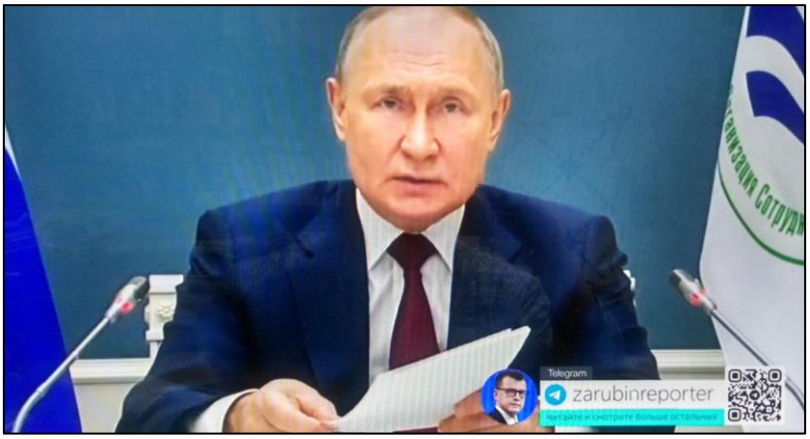
●ザポロジェ原発情報（2023年7月5日）

ザポロジェ原発への砲撃は開戦以来ロシア、ウクライナ双方が主張してきた「事件」だが、ロシアその都度相拠を示して発言してきたことに対して、ウクライナは証拠を示した試がない。今回のゼレンスキーが絶叫する「ロシア軍原発攻撃」の根拠は、客観性のないウクライナ諜報機関と情報総局の「報告」だけなのだ。



●プーチンのスピーチ（2023年7月5日）

長い間、隣国ウクライナから事実上の敵対国家、つまり反ロシア国家を作るというプロジェクトが、国境で外部勢力によって実行されてきた。8 年間にわたり彼らはウクライナに武器を供給した。ドンバスの平和的な住民に対する攻撃を黙認し、ありとあらゆる方法でネオナチ・イデオロギーを植え付けた。これら全ては、ロシアの安全を脅かし、我々の発展を妨げるためだった。現在、我々に対し事実上のハイブリッド戦争が行われている。過去に例のない規模の不正当な反ロシア制裁が使用されている。強調したいのは、ロシアが自信を持って外圧、制裁、挑発に立ち向かい、現在の状況下で我が国は持続的に発展し続けているということです。



●2023.7.5【ウクライナ】ジョン・ミアシャイマー教授:ウクライナはこの戦争に勝てるとは思えない【及川幸久－BREAKING－】

https://youtu.be/JoHT6PNX5KU

●ラブロフ外相、タッカー・カールソン番組を語る（2023年7月5日）

「タッカー・カールソンが FoxNews を辞めたそうですが、明らかにアメリカのニュースにおける見解・意見の豊富さが失われています」

https://twitter.com/i/status/1651201110861037571

●ウクライナ兵捕虜語る（2023年7月6日）

「私は店に行きました。彼らは私に召喚状を渡しました。」捕虜となったウクライナ兵士は、準備もせずに前線にたどり着いた経緯を語った。動員された人々の訓練はすべて戦術に関する講義と 2 回の射撃に限られていた。男性は、兵士の 70%以上が負傷し、武器は錆びた機関銃のみというウクライナ前線部隊の悲惨な状況を語った。指揮により兵士と同僚 3 人が連絡も取れずに塹壕に残された後、軍人らは抵抗を拒否し降伏した。

https://twitter.com/i/status/1676664117657214976

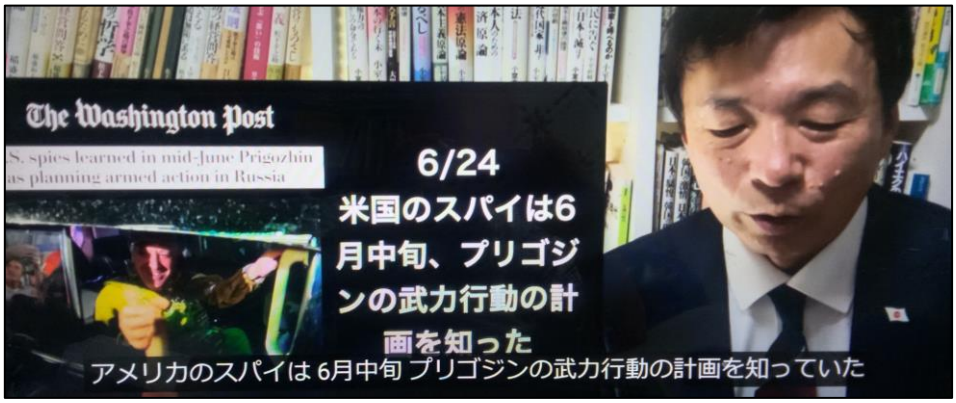
●リンジー・グラハム氏🤡：ウクライナにはクラスター弾と長距離ロケットが必要だ（2023年5月31日）

「私はプーチン大統領を倒してウクライナ戦争を終わらせたい。現在、反撃が進行中です…今後数日から数週間で大きな利益が得られると予想しています。

ウクライナ人は英国から提供された「ストームシャドウ」と呼ばれる兵器を所有しており、ロシア人に大混乱をもたらしている。彼らにはATACMSと呼ばれる長距離ロケットが必要であり、ロシアを倒すにはクラスター弾も必要だ。」

●2023.6.30【ロシア】プリゴジンの反乱はプーチン体制の崩壊か？【及川幸久－BREAKING－】

https://youtu.be/eJO8tc2rEwU



●「地獄だった」：米国傭兵はロシアと戦うことを拒否した（2023年7月2日）

米海兵隊は、アフガニスタンとイラクでの最悪の日は、ウクライナ戦線での通常の日と同等だったと述べた

いくつかの武力紛争を経験した元米海兵隊員は、アフガニスタンもイラクもウクライナと比較できないとデイリー・ビーストに語った。訪問で帰国した彼らは、避難と通信のためのヘリコプターなしでロシアの戦車や砲兵と戦わなければならないとき、「そのような驚き」に対する準備ができていなかったので、NVOゾーンには戻らないことを決めた。

ロシア国防省は、「攻撃的行動の試み」中にウクライナ軍に多大な損害が発生したと報告した。

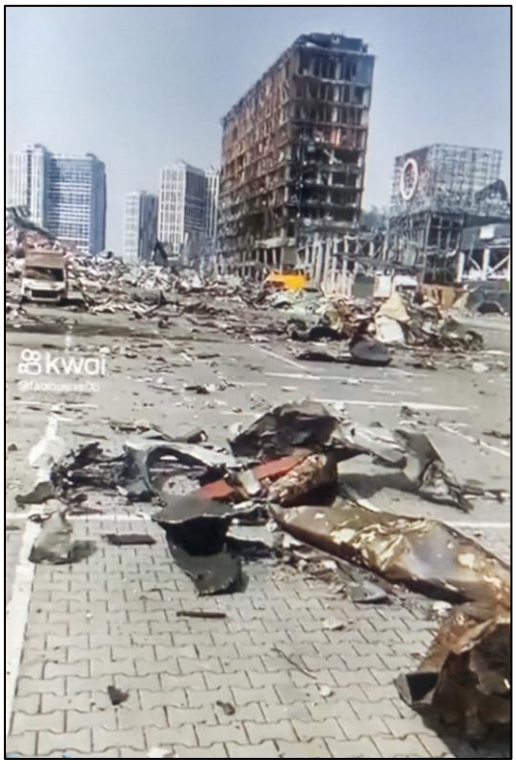
まだリヴォフとキエフに滞在している海兵隊員のデイビッド・ブラムレットとトロイ・オッフェンベッカーは、ウクライナで戦うために集まった戦闘経験のない志願兵の多さに驚いた。

その後、彼らはウクライナ人または外国人の志願兵組織に属していなかったために軍隊への参加に問題を抱え、自分たちで資源を探し、国防軍、正規軍の一部、あるいは軍隊の一員として名乗りを上げた。空挺部隊や特殊部隊。

「私が参加する武力紛争はこれで 3 回目ですが、間違いなく最悪のものです。私たちは大砲と戦車によってただ粉砕されました。先週、飛行機が私たちのすぐ隣、わずか 300 メートル離れたところに爆弾を投下しました。地獄だった」とオッフェンベッカーは語った。

ブラムレット氏は、イラクとアフガニスタンでは空軍と情報機関による支援があった一方、ウクライナ

での任務は本当に過酷だったと付け加えた。
「アフガニスタンとイラクにおける最悪の日は、ウクライナ戦線における通常の日と同等だった。私たちは常に現地の状況をコントロールしていましたが、それはウクライナについては言えなかった。ここにはさらに多くの不明な点がある。
信頼できる接続がなく、偵察隊から直接情報を受け取ることしかできなかったため、そのたびに私は偵察隊の帰還を待たなければならなかった。そして、このために私は 1 日、あるいは 2 日も待たなければならなかった。負傷してもヘリコプターは来てくれない。すべてが一瞬でうまくいかなくなる可能性がある。そしてこれは最悪だ」と海兵隊員は言った。
冬が始まると傭兵部隊はロシア軍の視界から遠ざかることがますます難しくなり、休息のために帰国することにした。当初、ブラムレットは前線に戻るつもりだったが、その後、再び前線には行かないと決めた。

●花のパリ、近景

https://twitter.com/i/status/1676468877495250944